

日銀の ETF 買い入れ政策が企業のガバナンスに与える影響

青野幸平（立命館大学）

郡司大志（大東文化大学）

中田勇人（明星大学）

本稿は日本銀行（日銀）による ETF 買い入れ政策が企業のガバナンスに影響したかどうかを検証する。日銀は 2010 年 12 月から ETF を買い入れ始め、2024 年 4 月に買い入れを終了した。我々は企業ガバナンス・インデックスを作成し、2010 年前後で ETF に組み入れられている企業（処置群）がそうでない企業（対照群）とのインデックスに差があったかどうかを Difference-in-differences 法によって推定する。推定の結果、日銀による株式買い入れが 1%増加すると、企業ガバナンス・インデックスは約 0.45 ポイント低下することがわかった。つまり、日銀の ETF 買い入れ政策は企業のガバナンスを悪化させていた。このことは、中央銀行による株式買い入れ政策に再考を迫るものである。